

'15. 10. 25

都サ連通信

発行 東京都手話サークル連絡協議会

代表 高田 直樹

<http://tosaren.web.fc2.com/index.html>

tosaren@syuwa.tv

FAX03-3961-2445

自立支援センター運営委員会報告**【9月報告】**

- ・夜間の事務員を引き続き募集中。
- ・リフレッシュ氷川の会場借用について、現在、センターまつりなどで借用しているが、今後、大きな行事での使用は、渋谷区民との兼ね合いもあり、年に1～2回との制限ができた。まつり自体のあり方も含め、対応を検討中。

【10月報告】

- ・夜間の事務職員の応募があり面接予定。
- ・センターまつりについて、ワンコイン企画やセンター2階の交流企画について今後検討をする。
- ・文部科学省は、全国の中学校へのスクールカウンセラーの設置を目指し経費補助を行っている。また、中学校を拠点にして小学校や高校にも派遣を行っている。

特別支援学校においても、スクールソーシャルワーカーの導入をお願いしていく予定。

- ・特別講演会第3弾10月18日(日)砂田アトム氏、第4弾2月20日(土)河合祐三子氏
- ・11月8日(日)「TOKYO手話カレッジ」於首都大学東京【東京都主催】自立支援センターとしては、チラシの配布等でPRをする。

(文責 高田・杉石)

福祉対策会議報告**第100回 福祉対策会議報告(9月7日)**

- ・9/5の東京都手話通訳問題研究会(東聴連と共催)は、参加者101名(東通研79名・東聴連22名)。
 - ・中難協30周年の集いは、出席者222名と盛況。
 - ・「手話言語法制定を求める全国集会」8/27は国会議員要請行動とその報告会。8/28の全体集会には170名、パレードには約500名が参加。衆・参各議員面会所では大勢の議員が立ち、全日ろう連役員がアピール文を読んだ。オレンジ色のうちわとベストが好評。
 - ・ネパールの地震支援へのカンパは、8月末で約20万円を全日ろう連に納入。
 - ・東京都は、遠隔通訳サービスやUDトークの制度化を検討中。JRでは既の実施している。
 - ・都区内では、手話通訳設置案が動いている。
 - 【災害】11/14(土)気象庁ツアー&防災ミニ講座 第二弾を開催、午前・午後各30名。
 - 【参政権】参議院選に向け、青年会議所との面談を準備中。
- *次回会議日程：10月5日(月)

第101回 福祉対策会議報告(10月5日)

- ・東聴連は10/18臨時評議員会(役員改選)開催。11/15(日)東京都聴覚障害者大会。12/12(土)・13(日)「情報アクセシビリティ・フォーラム2015」を開催予定。
 - ・11/8(日)「TOKYO手話カレッジ」(主催：東京都・協力：東聴連・中難協)を開催予定。
 - ・2016年9/24～25の「関東ろう者大会 in 東京」の会場がオリンピックセンターに確定。都サ連には要員の協力をお願いしたい。
 - ・中難協は10/17(土)午前、マイナンバー制度説明会を開催。講師は東京都総務局行政改革推進部行政改革課の担当職員。
 - ・都サ連は9/27(日)の一日研修会を報告(内容：聴導犬について・庄崎隆志氏によるワークショップ)。参加者は約150名。
 - ・東京都福祉のまちづくり推進協議会の意見具申確定。資料は構成団体に配布。代表保管。
 - ・手話言語条例。山梨県市川三郷町で9月に可決、10月施行。関東圏では、他にも条例を求める動きがいくつかある。
 - ・障害者差別解消法と各省の対応指針へのパブリックコメント募集に対し、全日本ろう連や各地域、東聴連からも提出。
 - 【災害】東京消防庁は10/14までの間、各消防署で防災ブックを使用したセミナーを開催中。東聴連で、出張セミナーとマイナンバーを併せた学習会を開催したい。
 - 【参政権】公開討論会の動画配信についてルール作りを検討中。
 - 【教育労働】「東京都ろう教育を考える会(仮称)」平成28年2月21日(日)開催に向け、9/12(土)第2回準備会議を開いて始動している。12/22(火)労働対策会議の予定。
- *次回会議日程：11月9日(月)記録：都サ連。
*第38回聴覚障害者施策推進地域担当者会議：12月17日(木)。手話言語法と福祉のまちづくりの学習会。記録：都サ連。

(文責：委員 林)

「都サ連一日研修会」

9月27日(日)東浅川保健福祉センター(八王子)にて、多摩南ブロック担当の一日研修会が開催されました。147名の皆様にご参加いただき、会場は大いに盛り上がりました。

午前の部は「聴導犬を知ろう!」をテーマに日本聴導犬推進協会の方より講演をいただきました。

デモンストレーションでは聴導犬の賢さと可愛さに拍手喝さい!ユウザーの講演では20歳で聴力を失った松本江理氏に聴導犬との関わりについてご自身の体験談をお話いただきました。

午後のワークショップでは庄崎隆志氏をお招きし、楽しく体を動かしました。「コミュニケーションとは、伝えるだけの技術ではなくお互いが理解し合うということ。」とのお話の通り、庄崎氏の視線、表情、体の動きで、感じ取り、笑い、感動できる、まさにそんな2時間でした。

色々不手際もあったかと思いますが、ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。(多摩南ブロック一日研修会実行委員会)

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*

先日は、都サ連の研修会にお邪魔させていただき、様々なことを学ばせていただいた。

第一部では、聴導犬の説明を伺った。私は「聴導犬」という言葉さえ知らなかったのが、第一部での講演は初めて聞くことばかりであった。最初に訓練士の方からのお話を伺ったときは、正直利口なペットの犬と大差ないのではないかとも思ってしまっていたが、実際に飼っている方の話を伺って、聴導犬の存在がどれほど聞こえない人たちの生活に安心を与えているかを知り、思っている以上に、聞こえない人に必要な存在であるのだと理解した。法律で認められているにもかかわらず、店などに入ることができないのは、大変遺憾であるが、それは「聴導犬」についての知識が不足している私たちの責任であると痛感した。サークルの話をする際、聴覚障害者を取り巻く環境の話をするのも少なくないので、その中で聴導犬に関わる問題についても触れていきたい。

第二部では、庄崎隆志さんの身体表現に関するレクチャーであった。ものの本には、「聴覚障害者は驚くほどジェスチャーが上手い」と書いてあり、実際に私もろうの方々と接して、それを感じる事が多い。手話の練習をしているときも、ろうの先生の表現力の豊かさ、迫真さに圧倒されることがよくある。そんな中、今回の講義において、その秘訣をうかがい知ることができた気がする。すなわち、「対象のいろいろな部分に着目して、それを身体で表現してみる」と「童心に戻ること(笑)」である。ろうの先生には、よく「イメージで伝える」と言われるのだが、その為には、「馬の脚・たてがみ・耳・鼻息、乗馬の様子」というように、一つ一つ分けて表現してみると上手くいくのだと、実感した。このことは、ぜひ今後の手話学習に取り入れたいと思った。

手話サークルに入った当初は、「手話が上手になりたい」「早く単語をたくさん覚えたい」などと思っていたが、この頃は、ろう者を取り巻く社会や文化について、あるいは手話辞典に載っている手話単語を超えた表現について、興味が向くようになった。その好奇心を満たしてくれる講演に参加できて、とてもよかったと思う。

(東京大学手話サークルしゅわっち 佐藤秀行)

たましろの郷後援会役員会

9/26(土)たましろの郷バスツアーが行われました。たくさんの方々が参加、ありがとうございました。

事務局から 2015年度会員数/個人947名(1023口) 団体41(52口) 募金箱回収/¥1,859,174(9/30現在) 今年には戦時体験を語る会の収益がなく、状況は厳しい。

今後の予定 10/25(土)たましろの郷後援会企画「私たちは聞こえなかった」講演会

11/8(日)たましろフェスタ2015 in 新宿 お申込み、チケット購入はお済みですか?まだの方はお早めに!

球根・カレンダー販売 お申込みは後援会HPからもできます。来年のカレンダーは予定の書き込みやすい壁掛けタイプ!よろしく願いいたします。そのほか後援会グッズも企画中。お楽しみに!

(文責 天野)

一日研修会 スナップ



松本江理さんと
聴導犬のブランカ



庄崎隆志氏のワークショップ